

◇全館共通項目は、中央図書館を含めた中心館が共通の意識を持って取り組んだ事業。
◆館の重点評価項目は、新潟図書館が重点的に取り組んだ事業。

区分	施策・事業名	概要	実施結果	評価		
				自己評価	外部評価	
ネットワーキングを活かした課題解決型図書館	◆全館共通評価項目 課題解決のためのレファレンスサービスの充実	・市民に身近な課題解決のためレファレンス(調査・相談)サービスを充実させ、迅速かつ的確な情報提供を行う。	・レファレンス件数は10,625件(所蔵調査を含む) 前年度比より9.3%減少。 ・所蔵調査を除いた件数は502件。 前年度の568件より11.7%減少。 ・行政書士無料相談会参加者は5名。(4~6月 計6回 5名参加, 前年度と同数)	・レファレンス件数全体としては減少したが、郷土関係の調査・相談件数は90件で前年度より5件増加。新潟市内図書館では中央図書館に次ぐ件数。秋葉地域の郷土資料の豊富さと職員の調査能力が向上した効果が少しずつ現れている。 ・児童関係のレファレンスは学校からの依頼が減少したが、個人からの調査・相談が20件増加。夏休み期間中に開催した「とじょかん探偵局」の実施が児童・生徒だけでなく、保護者への図書館の活用方法を周知するきっかけとなった。	3 大変評価する。50%	・新潟図書館の目玉である郷土関係の調査・相談が増えたことは大いに評価したい。イベントの実施が図書館活用方法の周知につながったことは、今後の図書館利用者の拡大や図書館事業の理解につながるものであり、評価できる。 ・レファレンス研修は若干減少しているものの新しい取り組みが見られるため、次年度につなげて欲しい。 ・郷土の資料に関しては昨年度から力を入れているとのことだったので、調査・相談が増えることは良い。 ・色々工夫し、地道な努力が少しずつ実を結んでいるように思う。アイデアを出し、今後も減少しないように努力して欲しい。 ・地域に根ざした活動が伸びていると感じられる。 ・レファレンスサービスは図書館にとっても重要な業務なので、職員の調査能力向上にこれからも力を入れて欲しい。また、利用者が相談しやすい環境づくりも行ってほしい。 ・郷土に関する資料がきちんと図書館に管理されていて、その内容について良く知る職員がいるということは大切なことであると思う。これからも期待する。 ・個人からの相談が増えたことは大変評価する。常駐の職員がいて、相談しやすさが増加の要因ではないかと思う。
	◆館の重点評価項目 市民ニーズに対応できるように、専門職、公務員としての資質向上を図るべく各種研修への参加を奨励する。	・図書館関係の職員研修参加及び館内研修の実施。	・研修参加職員数 延61名(平成28年度 延57名) ・歴史文化課に協力を依頼し、古文書の取り扱いについての研修を1回開催(平成28年度は未開催)	・新潟図書館に寄託された資料など貴重な古文書を多く所有している。改築後は古文書の閲覧を希望する利用者が増え、定期的に調査している方もいる。古文書の取り扱いについて学芸員から講習を受けられたことは大きい。 ・接遇研修など専門性研修だけでなく公務員としての資質を向上させる研修に職員を派遣することができた。日常業務において市民対応に活かされている。	3 大変評価する。100%	・郷土資料の閲覧が増加していることは大きな成果と言える。新潟図書館の特色として、今後も更なる資料の充実及び閲覧の増加に向けた取り組みを推進してもらいたい。 ・資質を向上させる研修に参加していること、利用者側から見ても窓口対応が丁寧、且つ敏速で市民対応に活かされている。 ・インターネットが普及する中、簡単な調べことは容易に学べるが、より専門的な部分を図書館の書籍に求めていると思う。専門性が磨かれることは評価できる。 ・新潟も発掘調査をされており、古文書や資料の閲覧や問い合わせも多いと思う。専門研修も必要とは思いますが、「専修司書」の育成も、長い司書の歴史から一段ステップアップの時期が来ていると感じる。 ・努力していることに敬意を表する。 ・学芸員からの講習は今後も続けて、職員のスキルアップにつなげて欲しい。所有する古文書が多くあることもアピールしたり、新潟図書館らしきを出して欲しい。 ・研修を受け、スキルを向上させることは大切。
特色ある地域づくりに寄与する分権型図書館	◆全館共通評価項目 地域資料の体系的な収集と活用	・各区を代表する人物・自然風土・産業等の地域コレクションの形成と展示を行う。	・郷土資料の所蔵冊数 16,427点。 前年度より464点増加。 中央図書館を除く市内中心館では最大の蔵書量。 ・地域のパンフレット、発行冊子を積極的に収集。	・区内各コミュニティから発行されている地域の資料などの情報を積極的に収集し、寄贈依頼をするなど蔵書収集に努めている。しかし、資料を展示、広く市民に紹介するところまでは実施できなかった。	3 大変評価する。50%	・収集した資料は、資料そのものに価値がある以上に、利用してもらうことでその資料が生きていることから、利用や閲覧に向けた取り組みを今後行っていくことに期待したい。 ・新潟図書館の一番大きな目標として資料展示館の要望を願い出るなどの働きかけが必要なのではと思う。すぐにはできないが、スタートが大切だと思われる。新潟図書館の強みになれるとよい。 ・図書館協議会で提案された地域かるたなども収集し、声を聴いて実行していると感じた。 ・図書館が「まちづくり」の視点からも地域活性化に向けての担い手となってきている。できる限り早く資料を展示、市民に紹介してもらいたい。 ・各コミュニティとの連携は大切だと思う。一同に展示・紹介する機会をぜひ作って欲しい。各コミュニティ協議会でその地区を紹介する良いパンフレットが揃っている。
	◆館の重点評価項目 電子図書館機能を強化するとともに、新潟らしい特色ある資料の提供に取り組む。	・郷土のデジタル資料のホームページ公開。	・新潟図書館所蔵の古地図をホームページで8点を追加公開(累計35点)	・継続事業としてアーカイブ化を進めている。「ホームページで見たが。」という問い合わせもあり、在野の研究者や図書館を活用しない市民にも一定の効果があると考えられる。	3 大変評価する。50%	・これからの時代、インターネットを通じた利用ができることも市民ニーズとして大きいものと思われる。ホームページの必要箇所にはカウンターをつけるなどの工夫によって検索数を把握することも今後必要となってくるのではないかと。 ・新しい利用方法で市民に活用してもらえることは一定の効果認められる。 ・ホームページに掲載することは素晴らしいと思う。どれくらいの方がアクセスしているか集計できると思うので、データで提示してみるとさらに良いのではないかと。 ・地域の情報拠点としての役割が公共図書館としての使命なので、資料提供を今後ともしっかり取り組んでほしい。
子ども・社会・民書融合型活動を推進する	◆全館共通評価項目 子どもの読書環境の整備	・ブックスタート事業を継続するとともに、赤ちゃんタイムを全館に拡大し、うちどく(家読)を推進する。	・1歳児誕生歯科検診受診者536名にブックスタートを実施。参加ボランティアは延81名。 前年度は554名に実施。	・ブックスタートボランティアに向けたステップアップ講座を全市で実施。活動中のボランティアに1歳児の発育段階と、緊急時の対応について学んでもらった。ボランティアからも好評であり、より落ち着いて1歳児とその保護者へ対応してもらえようになった。 ・ブックスタートでのボランティアによる図書館周知が効果的で、赤ちゃんタイムの読み聞かせ(0~3歳児対象)には毎回親子20名程度の参加を得ている。	3 大変評価する。100%	・ボランティアが安心して、自信を持って対応できるようになったことはとても意味のあることである。実施者の減少は年度によって仕方のない面もあるため、今回のステップアップ講座のように内容や運営面での工夫をこれからも行ってほしい。 ・ブックスタートでの図書館周知が効果的であることは参加ボランティアとしてとても嬉しい。親子一緒に図書館デビューが一番効率よくされていると評価する。 ・子どもの絵本を選ぶときの参考になると家族が話していた。良い活動だと思う。 ・幼い頃からの本との出会いは大切。長く地道に続けて欲しい。 ・うちどくの推進から図書館へ足を運んでもらうまでのつながりができていて良いと思う。ボランティアへの講座、教育の成果か。素晴らしいと思う。 ・赤ちゃんというよりも親にとって、絵本の楽しさ、絵や言葉の面白さを感じてもらえる良い機会だと思う。そのことが家庭での読み聞かせに繋がります。図書館との長いつきあいを育てて欲しいと思う。 ・ブックスタートでの赤ちゃんタイムなどの周知により図書館を利用する親子が増えたのは嬉しい。
	◆館の重点評価項目 学校、保育園、幼稚園等への支援。	・職場体験の受け入れ、施設見学の受け入れを継続して行う。	・中学生職場体験の受入数 9名(平成28年度 7名) ・学校への団体貸出数は前年度とほぼ同数で推移。	・職場体験の申し込みいただいたすべての学校を受け入れることができた。 ・幼稚園、保育園への読み聞かせは2回、職員を派遣することができた。 ・幼稚園、保育園が来館しての読み聞かせは4回。申し込みいただいたものを全て受け入れることができた。	3 大変評価する。87.5%	・全ての依頼に対応できたことは大いに評価したい。今後、依頼件数が増加することを期待したいが、それとは別に、極力依頼に応える体制を維持してもらいたい。 ・全て受け入れることができたことは評価できる。利用件数がもう少しあって欲しい。アピールして図書館の魅力を伝えて欲しい。 ・忙しい職務の中、職場体験を受け入れることは大変だと思うが、来た生徒にとっては非常に良い経験になっていると思う。 ・職場体験も増え、全部受け入れられて良かった。興味を持ってもらい、将来に結び付けられればと感じる。幼稚園・保育園が来館しての読み聞かせとなるため仕方がないのかもしれないが、少ないと思う。 ・中学生の受入は負担も大きいと思うが、是非継続してほしい。 ・子どもたちの読書離れが危惧されている現在、忙しいとは思いますが、これらの依頼にはできる限り対応して欲しい。 ・本を届けることの裏側にたくさんの人の色々な働きがあることを知る良い機会。図書館という空間を好きになり、世界を広げて欲しいので、大切だと思う。 ・小さい頃から本に親しむことができれば、将来の図書館利用もアップすると思われる。
市民参画と協働を推進する	◆全館共通評価項目 ボランティアや教育機関・民間団体等との協働	・ボランティア・教育機関や民間団体等と一緒に事業を行い、市民との協働を推進する。	・おはなしのじかんでの読み聞かせボランティア 活動延人数 410名(全207回) ・配架ボランティア 延74名(全55回) ・主催事業での参加ボランティア 延32名(全4回)	・『しかけ絵本を作ろう』『クリスマスカードを作ろう』などの事業や、毎週の読み聞かせにボランティアが参加している。区内地区図書室での読み聞かせにもボランティアが活動している。夏休みや冬休みに合わせて特別な会を催すなど工夫し、準備等を行っている。 ・配架ボランティアは参加者が増えたが、無理のない範囲での活動となるため、活動回数は前年度より減少している。	3 大変評価する。50%	・工夫した運営の様子が垣間見える。利用者だけでなく、ボランティアにとっても充実する事業となるよう、今後も取り組みの工夫をお願いしたい。 ・人手不足の中、よく実施されている。 ・主婦主体のボランティアを学生などに手伝ってもらうなどの新しい風を吹き込む工夫が必要ではないか。 ・読み聞かせばかりのイメージがある。子どもばかりでなく、大人を対象とした活動はしているのか。 ・読み聞かせボランティアの人材が減少しているのであれば、シニアボランティアの育成も考えても良いのではないかと。 ・いつも色々な企画を考えて楽しめる図書館を考えてほしい、ありがたい。
	◆館の重点評価項目 ボランティア、図書館関連機関との連携強化。	・市民のボランティア活動が継続できるよう、支援や情報提供を行う。	・読み聞かせボランティア養成講座(ステップアップ編)を開催(全3回 延参加者数 41名) ・区内活動中の読み聞かせボランティアグループ代表による交流会を開催(1回)	・ステップアップ講座としてわらべうた、科学絵本の紹介などを行った。参加者からは好評であり、その後の活動に活かされた。 ・読み聞かせボランティアの交流会を開催することによって各グループの活動内容を知り、自分たちの活動の参考としたり、助言を合ったりすることができた。	3 大変評価する。100%	・読み聞かせボランティアが他の団体と交流する機会はなかなかないと思われるので、交流会を実施することは大変有意義なことだと判断する。地域での活動の活性化に繋がるものである。 ・すぐに活動に活かされる内容で大変良かった。 ・協議会委員も数名読み聞かせボランティアがいて、大変そうなお話をされるので図書館がサポートすることは良いと思う。 ・交流会や助言をしたり、個々の活動の参考となり、良いと思う。ボランティアが増えるように頑張ってもらいたい。 ・ボランティア同士の情報交換は参考になった。その際、図書館職員とも色々な話をすることができ、有意義であった。ボランティアと職員が気軽に意見交換できる会も大切だと思った。 ・ボランティアのスキルアップは必要。そのことを通してまたやる気になり、エネルギーを持ち続けることが可能になる。 ・ボランティアもマンネリ化しやすいので、ステップアップ講座があるのは良いことだと思う。